

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式					
E113B006		保育の指導Ⅴ（表現Ⅰ） (Method of Infant EducationⅤ)							対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択必修	2	2（R5入学 以前は3年）	教育学部		月3	日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 廣瀬 剛、藤井康子、村上佑介													
	E-mail hirotake@oita-u.ac.jp（廣瀬）、fujii-yasuko@oita-u.ac.jp（藤井）、y-murakami@oita-u.ac.jp（村上） 内線 7639（廣瀬）、7595（藤井）、7594（村上）													
授業の概要	幼稚園教育における「表現」のねらいと意義、造形表現を通して乳幼児に育みたい資質・能力について、様々な色や形、素材を用いた教材研究（演習）を通して理解を深める。本講義では、教材研究の成果を踏まえ、幼児の主体的・自発的な経験が生まれる具体的な場面を想定した保育計画をグループで構想し、模擬保育を行う。模擬保育の様子は情報機器を使って記録し、振り返りを通して「表現」に適した環境構成や表現が豊かになる言葉掛けの内容について改善する視点を身に付ける。													
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	造形表現のねらいと内容、方法を実技演習を通して理解し、説明できる。							○	○					
目標2	幼児の造形表現の指導に必要なとなる基礎的な知識及び技能を習得できる。							○	○					
目標3	幼児の生活体験につながる情報機器と教材を活用した保育を計画できる。									○				
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度（計10）								5	3	2				
授業の内容														
1 幼児期の協同的・創造的な表現を育む保育の構想：国内外の事例から（担当：藤井康子）														
2 光と影で遊ぶ（工作に表すー生活科との連携ー（担当：藤井康子）														
3 自然の形と色で遊ぶ（絵に表す）ー生活科との連携ー（担当：藤井康子）														
4 自然の形と色で遊ぶ（立体に表す）ー生活科・算数科との連携ー（担当：藤井康子）														
5 秋の物語をつくる（共同制作）ー国語科との連携ー（担当：藤井康子）														
6 幼児と触覚について（担当：村上佑介）														
7 粘土を使った遊び①「土粘土で動物を作ろう」（担当：村上佑介）														
8 粘土を使った遊び②「小麦粉粘土でお弁当を作ろう」（担当：村上佑介）														
9 身近な素材を使った遊び「魔材を使って人形を作ろう」アイデア・制作（担当：村上佑介）														
10 身近な素材を使った遊び「魔材を使って人形を作ろう」制作・遊び（担当：村上佑介）														
11 教材研究①造形素材と用具の学び「まるを描こう」（担当：廣瀬 剛）														
12 教材研究②造形素材と用具の学び「くつつき虫」（担当：廣瀬 剛）														
13 教材研究③情報機器を活用した創造性を育む遊び「お話の世界へ」教材研究（担当：廣瀬 剛）														
14 教材研究④情報機器を活用した創造性を育む遊び「お話の世界へ」教材制作（担当：廣瀬 剛）														
15 教材研究⑤情報機器を活用した創造性を育む遊び「お話の世界へ」発表・ディスカッション（担当：廣瀬 剛）														
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	グループ・ペアで教材研究を行い、模擬保育を通して学生同士で保育内容について相互に意見交流をしたり、改善案について考える時間を設ける。				工夫の他の							
授業時間外 学習の内容 と想定時間	準備学習	インターネットや雑誌、図録、展覧会等で日本及び世界の様々な芸術作品を見て、用具・材料を含めた造形に対するイメージを膨らませること（20）。												
	事後学習	用具・材料や表現について関心を持った事柄を資料や文献等を使って調べ、理解を深めること（25）。												
	想定時間合計	45												
教科書	必要に応じて資料を配布する。													
参考書	・『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年、ISBN 4-8054-0258-0。 ・汐見稔幸・無藤 隆（監修）『＜平成30年施行＞』保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ出版、2018年、ISBN 9784623080984。													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	作品課題等		40%		○								
	保育計画の立案・演習への取り組み		30%	○		○							
	授業の振り返りを含めたレポート		30%	○		○							
注意事項	鉛筆、水彩絵の具セット、カッターナイフ、接着剤等、受講者が用意するものは開講前に掲示します。												
備考	特になし。												
リンク													
	URL												
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○												
教員以外で指導に関わる実務経験者名	(廣瀬) 子どもの造形活動指導、グラフィックデザイナー、イラストレーター												
実務経験をいかした教育内容	(廣瀬) 造形教育に関する実技指導、デザイン、イラストレーションの実技指導												